

令和3年度入学 編入学（一般）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	松尾 知明	「移民時代」の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン	明石書店, 2020年より pp.125-128	明石書店
	2	The Japan Times	Afghanistan and Japan lose a hero	The Japan Times, Friday, December 6, 2019より	The Japan Times
	3	村木 厚子	日本型組織の病を考える	KADOKAWA, 2018年より pp. 200-204	KADOKAWA

令和3年度 編入学（一般）

社会福祉学部
総合問題 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、9ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点70点)

日本人性(日本人であること)は、日本社会においてどのような社会的意味をもつのだろうか。ここで日本人性とは、定義的にいえば、日本人/非日本人(外国人)の差異のシステムによって形成されるもので、日本人のもつ目に見えない文化実践、自分や他者や社会をみる視点、構造的な特権などから構成されるものといえる。

日本人であること(日本人性)は第一に、目に見えない文化実践をもつことを意味する。日本人であることは、空気のように毎日の生活のなかで意識されることはほとんどない。日本人であることが、人間であることと同じ意味で捉えられ、すべてであり(7) フヘンであるかのように見なされる。このような日本人のあり様は、日本文化の透明性という特徴をもつことになる。日本人性をもつことによって私たちは、エスニック集団の文化を特有な中身をもつ具体として語るのに対し、日本文化は確かにあるにもかかわらず、空気のように可視化されず実体のない存在となる。

第二に、日本人であることはまた、自分や他者、社会を見る視点をもつことを意味する。こうして認識にのぼらない日本文化は、一般的あるいは(7) フヘン的なものとして社会の(11) キハンとなる。日本社会において、何がノーマルで、正しく、大切であるかは、不可視な「日本人」の視点によって形成される。日本人性のもたらすこれらの文化実践は、自覚されないだけに、きわめて強制力の強い社会の常識として日本社会の見方や考え方を形成していく。こうして、私たちは意識することなく自文化を中心とした なパースペクティブをもつことになる。

第三に、日本人であることはさらに、日本社会において構造的な特権をもつことを意味する。それは、日本人がマジョリティとしての権力を行使して獲得したというよりは、可視化されない日本文化の実践を通して暗黙の了解の形で享受されるものである。意識にのぼらない日本人の経験、価値、生活様式は、外国人にも当然のこととして同様に適用されることになる。あるべき標準として正統化された日本社会のルールや(11) キハンは、知らず知らずのうちに、日本人と外国人の間で、就労、居住、医療、教育、福祉など社会の諸領域において構造的な特権として機能しているのである。

日本人性概念によって(12) シサされるのは、日本社会で外国人として生きるということは、このような目に見えない文化実践、日本人のまなざし、構造的な特権にマイノリティとして対峙しなければならないということである。このことは、あたかもスポーツ大会で、ルールもわからないなかで、勝ち目のない戦いを挑んでいるようなものである。

日本人にとって、ふつうのこと、当然であることのなかに、自文化中心主義的な文化実践やパースペクティブが刷り込まれているため、外国人の直面する文化的な(12) シヨウヘキについての日本人側の理解はなかなか進まないことになる。しかしながら、多様な人々と共に生き、多文化の共生を実現するためには、私たちがこの日本人性の問題に正面から取り組む必要があるだろう。

日本人が見えない中心を形成する多文化社会において、日本人性のもたらす文化的に不連続な実践は、外国人の可能性を制限する形で機能することになる。このような日本人性の生み出す不可視な文化実践を「⑩ガラスの箱」という言葉で表現したい。

ガラスの箱は、透明で何もないかのように見えるが現実には確かに存在していて、外国人の行為に影響を与えているものである。それは、日本人の常識としての言説や言説実践、日本人のまなざし、あるいは、日本人に特権として有利に機能する不可視な(エ) ショウヘキなどによって構成され、行為主体としての外国人の生き方を制限したり、枠づけたりするものといえる。

外国人たちが直面する文化的に不連続な実践は、ガラスの箱として、かれらの可能性を制限する形で機能することになる。すなわち、日本人性（日本人であること）が存在するため、意識にのぼらない日本人の(オ) カンシュウ、価値、生活様式は、外国人にも当然のこととして一律に適用されることになる。

一方で、外国人のあり様を枠づけているガラスの箱は、特別な努力をしない限り、日本人にとっては見ることができない。そのため、気づかれぬままに日本人性によって方向づけられる文化実践は儀式のように繰り返され、非対称な社会関係や不平等な社会構造が再生産されることになるのである。マイノリティに由来する苦勞や辛さは、マジョリティの日本人には気づかれることがないまま、温存されてしまうのである。

従って、多文化の共生をめざすにはまず、このようなガラスの箱という形で機能する不平等な日本社会の現実をいかに「見える化（可視化）」していくかが課題となる。⑥ 日本人の常識としての言説や言説実践、日本人のまなざし、あるいは、日本人の特権などの不可視な文化実践と対峙していくことが求められるのである。

（松尾知明『「移民時代」の多文化共生論-想像力・創造力を育む 14 のレッスン』、明石書店、2020年、pp.125-128 より、一部改変）

問1 下線部（ア）～（オ）のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 にあてはまる語句として最も適切なものを、以下のア～オから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 自律的 イ 主観的 ウ 刹那的 エ 限定的 オ 排他的

問3 下線部①「ガラスの箱」は日本人と外国人にとって、どのようなものか。本文の内容に即して、それぞれについて50字以上70字以内で説明しなさい。

問4 下線部②「日本人の常識としての言説や言説実践，日本人のまなざし，あるいは，日本人の特権などの不可視な文化実践と対峙していく」とはどういうことか，本文の内容に即して160字以上180字以内で説明しなさい。

2 次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 60 点)

The murder of Tetsu Nakamura in Afghanistan this week was a horrific tragedy for both Afghanistan and Japan. ①Mr. Nakamura's passionate commitment to helping the people of Afghanistan earned him not only immense respect but friendship, too. That commitment also made him a target of the reactionary and xenophobic forces in Afghanistan that prefer privation and instability, conditions (ア) which ②they can flourish. Those who support and admire Mr. Nakamura's work must not be deterred by this appalling act but must instead honor his memory and his work by continuing to assist those most (ア) need throughout the world.

Mr. Nakamura first visited Afghanistan in the 1970s, drawn to the region by a fascination with insects and a desire to climb its mountains, and he quickly [1] a deep affection (イ) the area. After completing his medical training, he returned in the 1980s to Peshawar, Pakistan, to work in medical clinics to help locals and refugees fleeing war in neighboring Afghanistan.

As his medical practice [2] to eastern Afghanistan, Mr. Nakamura discovered that drought and dirty water were a greater threat than disease. First he dug wells — more than 1,600 (ア) total — but he then [3] and helped spread age-old Japanese irrigation techniques that required little technology. ③Eventually, his efforts yielded a network of canals that transformed a region that was home to almost 1 million people, turning nearly 24,300 hectares of desert into forests and productive wheat farmlands.

He [4] the 2003 Ramon Magsaysay Award, a prize for "greatness of spirit and transformative leadership in Asia" that is often referred to as "Asia's Nobel Peace Prize." His award cited "his passionate commitment to ease the pain of war, disease and calamity among refugees and the mountain poor of the Afghanistan-Pakistan borderlands." In 2013, he [4] the Fukuoka Prize, awarded by the city where he was born to honor "the promotion and understanding of unique cultures in Asia."

Earlier this year, Afghan President Ashraf Ghani gave Mr. Nakamura honorary citizenship (イ) his services to the country. Mr. Ghani expressed "utmost grief and sorrow" after Mr. Nakamura's death and his spokesman called the attack a "heinous act and cowardly attack on one of Afghanistan's greatest friends." Villagers and leaders lauded Mr. Nakamura's work and lamented his death. Hundreds of social media pages published pictures of the doctor and condemned the killing.

Prime Minister Shinzo Abe said Mr. Nakamura made an "enormous contribution" to Afghanistan, adding that the doctor had "risked his life to make various contributions." A

spokesman (イ) the United Nations secretary-general called the killing "a senseless act of violence against (ウ)."

(*The Japan Times*, "Afghanistan and Japan lose a hero", Friday, December 6, 2019 より, 一部改変)

(注) reactionary 反動的な xenophobic 外国人嫌いの privation 窮乏
instability 不安定 flourish 頭角を現す deter 阻止する
appalling ぞっとする fascination 魅了 drought 干ばつ well 井戸
irrigation 灌漑 transformative 変革を起こす calamity 惨事
honorary citizenship 名誉市民権 utmost 最大の heinous 憎むべき
cowardly 卑怯な laud ほめたたえる lament 嘆き悲しむ
the United Nations secretary-general 国連事務総長 vulnerable 弱い

問1 下線部①を日本語に訳しなさい。

問2 文中の空欄 (ア) と (イ) に入る最も適切な前置詞を以下から1つずつ選び、それぞれ英語で書きなさい。ただし、(ア) と (イ) に同じ前置詞は入らない。

at by for in of to with

問3 下線部②の代名詞 they が指示する名詞句を、本文から抜き出し、英語で書きなさい。

問4 文中の空欄 1 から 4 に入る最も適切な動詞を以下から1つずつ選び、それぞれ英語で書きなさい。

developed devoted earned introduced published spread won

問5 下線部③を日本語に訳しなさい。

問6 次の語句を並べ替えて、文中の空欄 (ウ)に入る、最も適切な英語の表現を作りなさい。

Afghans / a man / dedicated / helping / much / of his life / the most vulnerable / to / who

問7 次の英文が「冒頭の一文として挿入されるのに最も適切な段落」は何段落目か。算用数字で書きなさい。

Mr. Nakamura's work earned him widespread recognition.

3 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 70 点)

拘置所の中にいたからこそ課題に気づいて始めた活動に「共生社会を創る愛の基金」があります。こちらは A 障害者への支援です。

福祉に結びついていないために困窮して、罪を犯してしまう人たちがいる。社会のルールがよくわからないために犯罪を繰り返してしまう人たちがいる。犯罪の背後には悪い大人がいて、障害を持った人や弱い立場に置かれた人たちがだまされたり、脅したりしている構図もあるといわれます。福祉にたどり着けず、家族や地域とのつながりも壊れたために過ちを繰り返し、刑務所に何度も出入りする「負の回転扉」を何とか変えたい。

以前は、刑務所には恐ろしい人たちがいる、犯罪は悪い人が犯すもの、福祉や障害者とは遠い世界の話、と思い込んでいましたが、実は、福祉と司法は隣り合わせの問題だったのです。

冤罪事件を受け、私が国家賠償請求訴訟を起こし、「認諾」^(注1)という、予想もしない国の対応により、損害賠償のお金が入ったわけですが、そのお金を、A 障害者支援に使ってもらうことにしました。郵便不正事件^(注2)はもともと障害者に関係した事件でしたし、事件を通して刑事司法の問題点が明らかになったので、障害と司法にまたがる分野で賠償金を使うのが一番いいと考えたからです。

A 障害者支援で実績のある長崎県雲仙市にある社会福祉法人「南高愛隣会」に約 3,300 万円を寄付しました。法人のアイデアで、一度きりで終わる寄付でなく、基金にしようということになり、2012 年に「共生社会を創る愛の基金」が設立されました。

小さな基金ですが、様々な人たちの協力や本体の社会福祉法人の財政的支援を受けて、いろいろな活動を進めています。例えば、トラブルシューター（問題解決人）といって、知的障害や発達障害のある人たちが周りの無理解もあって起こすトラブルに対処できる人たちの育成やネットワーク化などです。また、前千葉県知事の堂本暁子さんが中心になって始めた女子刑務所の研究は、法務省を動かして事業化され、2018 年からは男子刑務所にもその考え方が広がっています。「暮らしのルールブック」という、知的障害の人たちが自分ではわからずに犯罪を犯してしまったり、犯罪被害に遭ったりするのを防ぐためのイラスト入り教則本は、口コミだけで発行後わずか 1 年間に 1 万部以上が販売されました。

シンポジウムも毎年実施しています。テーマはもちろん毎年違いますが、検事、弁護士、刑務所や更生保護の関係者など司法に携わる人たちと福祉関係の人たちが両方とも参加するという、なかなか他にはないシンポジウムです。

もう一つの事業は草の根活動の支援です。地域で地道に活動している A 障害者支援や出所者の社会復帰支援などの活動に対して、20 万円の助成を年間 10 団体ほどに対して実施しています。父母の会や研究会など法人格がないところでも、良い活動をしていれば助成するのが基本です。

2017 年 11 月に、島根県にある刑務所を視察で訪れました。地域交流が盛んと聞いたからです。介護を学んでいる受刑者が職業訓練で近くの老人ホームを訪れ、入居者に食事の介助をしている様子を

見せてもらいました。

受刑者が塀の外と交流するのって大事なんです。出所後の再出発がスムーズになって、再犯を防ぐためにも効果があります。けれど、なかなか難しい。警備の費用もあるし、事件や事故の心配もある。地域の人たちの不安もある。でも、出所してきた人を地域は一員として受け入れなければいけません。

受刑者って怖い人のイメージがありますよね。私もそうでした。でも、だまされたり虐待の被害に遭ったりして、結果的に罪を犯してしまった人も少なくない。現実社会の中で「生きづらさ」を抱えた人たちが、自分の弱さもあって逃げ込んだ場所が刑務所ではないか。そうした人たちは、社会が受け入れてくれないとすればまた過ちを犯す。これをなくしたい。塀の中だけでなく、◎地域の中で更生する仕組みをもっと作りたい。

(中 略)

繰り返しになりますが、罪を犯した人も、もともとは、その地域に住んでいた住民です。罪を重ねる「負の回転扉」を止められるかどうかは、出所者を社会が隣人として受け入れられるかどうか、企業が従業員として受け入れられるかどうかなどにかかっています。

こんな話があります。前科 19 犯の人が 20 回目の逮捕で、初めて知的障害があるとわかりました。福祉施設が受け入れることを条件に執行猶予となったのです。その施設の人に「前科 19 犯の受け入れは、とても勇気がいったでしょう」と尋ねると、「凶悪犯なら 19 回も刑務所に入れないでしょう」という答えが返ってきました。確かに凶悪犯なら、刑期が長くて、19 回も入れそうもありません。人は、よく知らないものに対しては怖いと思いがちだし、誤解もしがちです。実態を知ることが大事だと改めて感じました。

(村木厚子『日本型組織の病を考える』, KADOKAWA, 2018 年, pp.200-204 より, 一部改変)

(注 1) 認諾：被告側が原告側の訴訟上の請求を認めること

(注 2) 郵便不正事件：郵便料金が格安になる障害者用の郵便割引制度を悪用した事件で、筆者がこれに関与したとして逮捕・拘留されたが、無罪となった事件

問1 Aには、下線部①「犯罪を繰り返してしまう」という意味の言葉が当てはまるが、その言葉として適切なものを、以下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 従犯	イ 眞犯	ウ 累犯	エ 共犯
------	------	------	------

問2 下線部②「福祉と司法は隣り合わせの問題」とはどのようなことか、本文の内容に即して100字以上140字以内で説明しなさい。

問3 下線部③「地域の中で更生する仕組み」とは受刑者に対するどのような仕組みか、筆者の考えを端的に示している箇所を本文から抜き出し、15字以内で答えなさい。

問4 罪を犯した障害者が、出所後に犯罪を繰り返さないようにするにはどうしたらよいか、筆者の主張を150字以上200字以内でまとめなさい。